

SDGs関連の新サービス

「JQA-SDGsステップアップメニュー」を スタートしました



審査事業センター
環境審査部 部長
山田 衛

JQAでは、2021年6月からSDGsに関する新サービス「JQA-SDGsステップアップメニュー」をスタートした。このサービスの概要などについて、審査事業センター環境審査部 部長の山田 衛に聞いた。

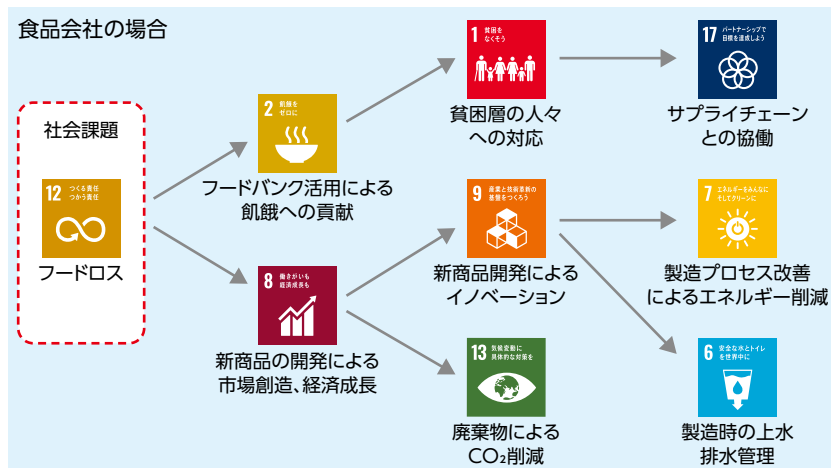
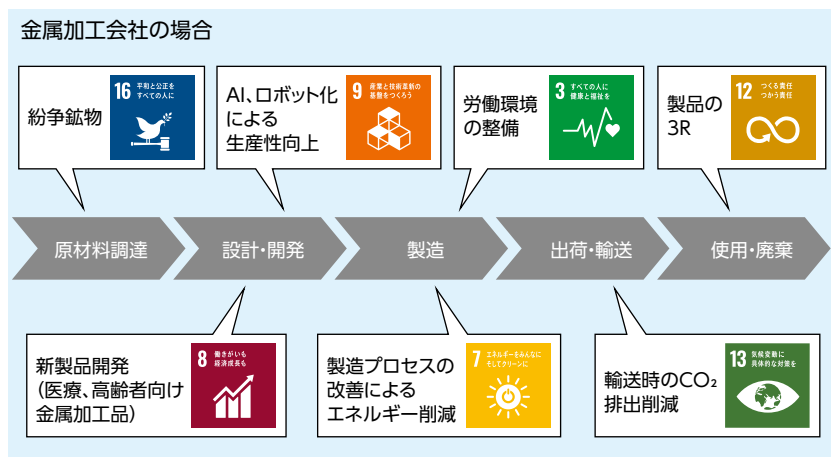
Q 新サービス「JQA-SDGsステップアップメニュー」の概要をお聞きする前に、SDGsとは何かをお聞かせください。

A 最近話題のSDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、Sustainable Development Goals

(持続可能な開発目標)の略で、2015年に国連で採択された17個の目標を示します。ここ数年、メディア等で頻繁に取り上げられるなか、街中ではSDGsバッジを胸に付けている方も多く見受けられ、社会への浸透が進んでいると感じます。SDGsの17目標は、貧困や飢餓、人権などが含まれており、自分とは別世界のことと感じる方もいるかと思いますが、17目標はそれぞれ関連性があり、すべての要素が結びついています。例えば、金属加工会社では、原材料調達先をたどっていくと、海外の紛争鉱物に関連している可能性があります。また、工場内のプレス機による騒音や振動対策を行うことは、従業員の健康を守ることに繋がります。

食品会社の場合には、賞味期限の切れた食品の廃棄によるフードロスが社会問題化しています。課題解決に向けて、売れ残らないような新商品を開発することが新たな市場創造につながり、サプライチェーンと協働してフードバンク等を活用することで飢餓や貧困層の人々に対する貢献となりま

■ 図 企業のSDGsとのかかわり例



す。このようにSDGsは、事業活動とそれぞれの目標のつながりについて、理解を深めることがポイントとなります。

Q 企業のSDGsに対する注目は高まっているのでしょうか。

A あらゆる企業活動はSDGsの17目標に関連しています。SDGsへの取り組みは、事業活動を通じて社会課題の解決につながり、さらにSDGsの観点で事業を見直すことで、新たな価値やビジネスを創造することにつながる可能性があることから、企業の注目度はますます高まっています。

例えば、あるITソリューション企業では、強みであるICT技術を生かした農業管理システムの開発を通じて、SDGs目標2の「持続可能な農業」や目標9「持続可能な産業化」へ貢献し、目標13「気候変動」の適応策として、農作物の高温障害対策に寄与することに関連付けて製品を展開しています。

また、新たなビジネス機会の例としては、社会課題として新型コロナウイルスが猛威をふるうなか、既存のITソリューション事業をSDGsの観点で見直して、リモートワーク支援システムや遠隔ヘルスケアシステムを新たに製品化することで、SDGs目標3「健康」や目標8「生産的な雇用創出」に貢献すること、等があります。こうした例は、ビジネスを通じて社会課題の解決を目指すものであり、今後さらに企業における重要度が増すと考えます。

Q 実際にJQAでISOマネジメントシステムの認証を取得している企業から、SDGsに関する相談やお問い合わせはあるのでしょうか。

A あります。SDGsに対する関心の高まりから、「SDGs 17目標と自社の事業との関連性や取り組みに対してアドバイスしてほしい」といった内容や、

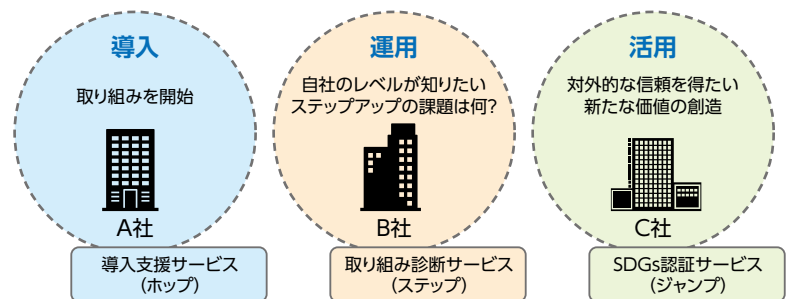
「SDGsへの取り組みに関してISOと関連づけた効果的な運用等についての提案や改善に向けた提案がほしい」といったご要望をいただいています。JQAでは、こうした寄せられるご要望にお応えすべく、長年のISOマネジメントシステム審査を通じて培った知識やノウハウを活かして、「JQA-SDGsステップアップメニュー」をスタートしました。

Q 「JQA-SDGsステップアップメニュー」の概要や特長をお聞かせください。

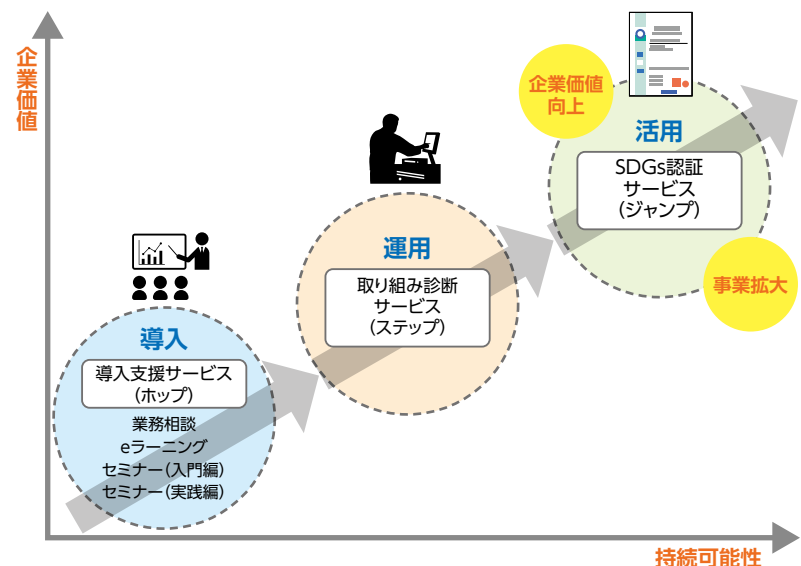
A 「JQA-SDGsステップアップメニュー」は、企業が自らの事業活動を通じて、社会課題を解決することで、企業価値向上や事業拡大を効果的に達成するために、3つのステップによるサービスを提供します。

まず、これからSDGsに取り組む企業やISOマネジメントシステムを活用してSDGsを効果的に推進

■ 図 JQAが提供する各サービス



■ 図 3つのステップを踏んで、持続可能性を高め、企業価値を上げるロードマップ



したいと考えている企業に対する「導入支援サービス(ホップ)」。次に、現在の取り組みレベルを確認して認証取得に向けた課題や改善に向けたヒントを提示する「取り組み診断サービス(ステップ)」。そして、ISOマネジメントシステム審査のなかでSDGsに対する取り組みを検証し、JQAが策定した基準に基づいて認証する「SDGs認証サービス(ジャンプ)」です。
これらのサービスは、SDGsの導入支援から取り組

み診断、認証までカバーするトータルパッケージであることが最大の特長です。また、JQAは長年のISOマネジメントシステム審査を通じて培った知識や企業の取り組み事例などをもとに、ISOマネジメントシステムを活用してSDGsへの取り組みを推進したいと考える企業にアドバイスやヒントを提供することが可能であり、このメニューの強みと考えています。

■ 「JQA-SDGsステップアップメニュー」の各サービスの概要

導入支援サービス(ホップ)

「業務相談」

SDGsの概要をはじめ、17の目標の要点やISOマネジメントシステムを有効に活用してSDGsに取り組む際のポイントなど、ご要望に応じた相談について承ります。

「セミナー」「eラーニング」

いずれも入門編と実践編をご用意しています。

≪入門編≫ SDGsの概要やSDGs達成に向けた効果的なシステム構築のポイントをご紹介します。

≪実践編≫ ISOマネジメントシステムを活用したSDGs取り組みのポイントや具体的な業種別の事例などを紹介します。

導入支援サービスは、こんな企業におすすめ

- ・これからSDGsに取り組みたいが、そもそもSDGsについて知りたい
- ・取引先からSDGsへの取り組みを要請されたが、何から始めてよいか分からない
- ・ISOマネジメントシステムを活用してSDGsに取り組みたいが、進め方についてアドバイスがほしい
- ・ISOマネジメントシステムを活用してSDGsに取り組んでいる企業の事例を知りたい

取り組み診断サービス(ステップ) ※サービスの開始時期はJQAにお問い合わせください

SDGsに対する取り組み状況を診断し、取り組みの課題や改善に向けたヒントをまとめたレポートを提供します。認証サービスに効果的につながるサービスとしてご利用いただけます。

取り組み診断サービスは、こんな企業におすすめ

- ・SDGsに取り組んでいるが、取り組みのレベルを知りたい
- ・自社のSDGsへの取り組みにおける課題を知りたい

SDGs認証サービス(ジャンプ) ※サービスの開始時期はJQAにお問い合わせください

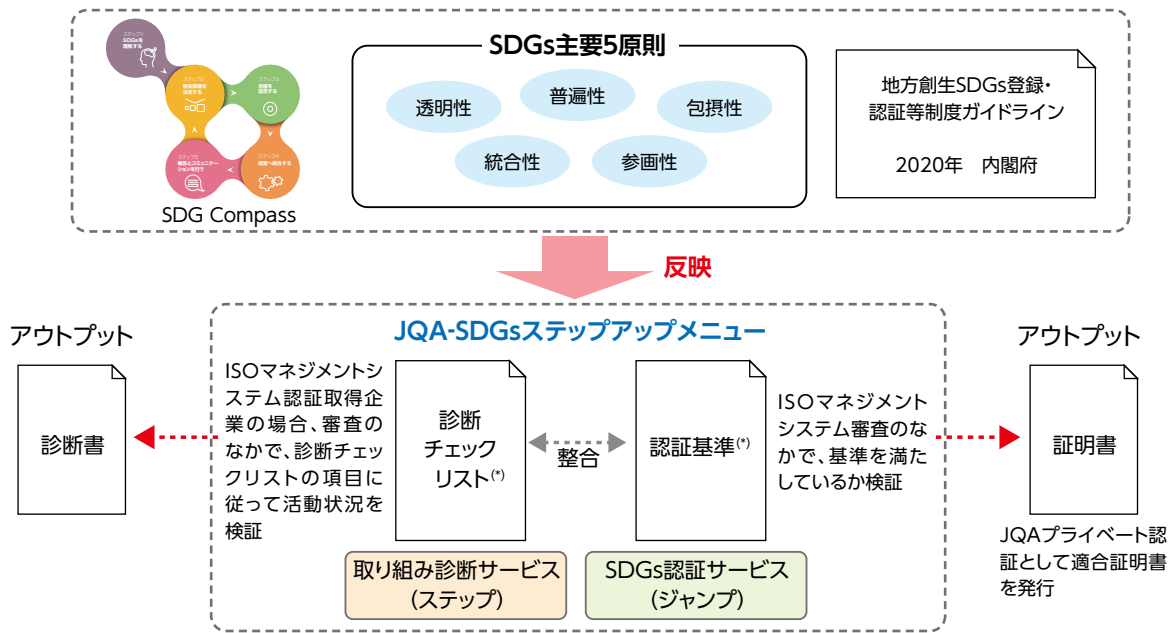
JQAが策定した基準に基づき、JQAが行うISOマネジメントシステム審査のなかでSDGsに対する評価を行い、証明書を発行します。

認証を受けることで、SDGsの取り組みに対して、対外的な信頼を得ることが期待できます。

SDGs認証サービスは、こんな企業におすすめ

- ・ISOマネジメントシステムを活用してSDGsに取り組んでいることを対外的にアピールしたい、対外的な信頼を得たい

■ 図 取り組み診断サービスとSDGs認証サービス



(*) 診断チェックリストと認証基準には、「SDG Compass」「SDGs主要5原則」「地方創生SDGs登録・認証等制度ガイドライン(2020年 内閣府)」の内容を反映しています。

Q 「JQA-SDGsステップアップメニュー」の利用条件はあるのでしょうか。

A 「導入支援サービス(ホップ)」はISOマネジメントシステム認証の取得、未取得いずれの企業もご利用いただくことが可能です。今後サービス展開する「取り組み診断サービス(ステップ)」と「SDGs認証サービス(ジャンプ)」は、サービス開始当初はISO 14001認証取得企業が対象となりますが、他のISOマネジメントシステム規格の認証を取得している企業に対してもサービスを拡大する予定です。また、「取り組み診断サービス(ステップ)」にあっては、将来的にISOマネジメントシステム認証を未取得の企業に対しても拡大を予定しています。品質や労働安全衛生、情報セキュリティ等のISOマネジメントシステム規格の認証取得企業でも、SDGsに関する相談事などがあれば、お気軽にご連絡いただければと思います。

Q 「JQA-SDGsステップアップメニュー」を利用することで期待できる効果をお聞かせください。

A 次のような効果が期待できます。

- これからSDGsに取り組む企業にとっては、導入支援サービス(ホップ)を通じて、SDGsへの取り組みを推進していくために欠かせない知識・ノウハウを学ぶことができます。これにより、SDGsの目標達成に向けた効果的な取り組みが期待できます。
- すでにSDGsへ取り組んでいる企業にとっては、取り組み診断サービス(ステップ)を通じて、自社のSDGs目標達成に向けた課題を把握することができるとともに、JQAが提供する課題解決に向けたヒントをもとに、取り組みの更なる改善が期待できます。また、SDGs認証サービス(ジャンプ)による認証を受けることで、利害関係者からの対外的な信頼の獲得や、企業価値の向上につながることを期待できます。